昭和58年度関根浜及びその周辺地域漁業振興調査
ホタテガイ漁場開発実証試験

（要　約）

平野　　忠・青山　禎夫・田中　俊輔・仲村　俊毅

前年度の放流と第1回追跡調査にひき続き、第2回、第3回の追跡調査とラーバ調査を行った。なお、結果の詳細については別途報告書(*)を参照されたい。

第2回追跡調査

昭和58年9～10月に、桁網と潜水により行った。桁網の漁獲効率を併せて測定した。

- 旅流時からの生残率は、大畑24～48％、関根浜38％、石持67％、野牛57％、岩屋36％、尻屋17～38％と、地区によるばらつきが大きかった。
- 桁網の漁獲効率は、11.8％～64.8％と幅がみられた。

第3回追跡調査

昭和59年3～4月に、桁網により行った。ただし、関根浜は潜水も加えた。

- 放流時からの残存率は、大畑0％、関根浜1％、石持43～62％、野牛33～48％、岩屋10～29％、尻屋5～19％となり、石持と野牛以外は大幅に減少した。
- 減少の原因については、ミズダコによる食害が第一に考えられた。

ラーバ調査

昭和58年4～6月に5回にわたり、野牛地先でラーバの採集を行った。また、6月と8月の2回、大畑地先で付着稚貝を測定した。

- ラーバの出現数は5月上旬に最大となり、例年に比べ早めであり、陸奥湾と同様な経過を示した。
- 採苗器の投入が5月10日と遅かったため、付着数は採苗器当り22個と少なかった。

開発可能区域の推定

底質の粒度組成から、当海域（大畑～尻屋）でのホタテガイ放流漁場として開発可能な面積を約5,100*ha*と推定した。

注　(*)昭和58年度関根浜及びその周辺地域漁業振興調査報告書．昭和59年3月．青森県